

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：金沢市東山1-38-30・松魚亭

TEL <0762> 52-2271

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 22-2525

会長：沢田哲夫 幹事：米沢修一

情報委員長：春田義正

1985・9月5日 第298号

「60高校総体を終えて」



石川県教育委員会教育長

小村 良智氏

高校総体で私は事務局長として裏舞台での世話をしたが、まず心配されたことは、お天気と食中毒で、天候の方は私の執念で晴らしてみせると云ったが、今日で37日続く真夏日は高校総体のおかげだと云われて、被害を出した晴天続きに、いささか責任を感じている。

8月1日に始ったこの高校総体は、全国から2万9千人の選手が集り、県下35の市町村で25競技28種目が繰りひろげられた。石川県の単独開催は、鹿児島に次ぐ史上2度目のことで、当初は小さな一県で出来るかどうか危まれた。競技水準にしても非常にレベルが低い。全国の30位台が石川県の常識で、そんな県で引き受けて惨敗し、それみたくと云われるのを心配した。また報道にしても、石川一回戦で敗退といったように、新聞の見出しが日を追って少なくなるかと心配したが、運良く見出しも続き、最終日には金メダルでフィナーレを飾った。これは演出ではなく、大変うまくいったと喜こんでおり、皆様の御支援を感謝している。

県下74の競技場に集った観衆、役員、関係者を除いたメイン会場だけに集った役員でも33万人で、昨年が最高といわれた秋田県の総観衆34万人を大きく上廻るものだった。また、県内各地で若さいっぱい白熱して闘った選手に、地元・県外に関係なく暖い声援が送られた。

この大会の特徴の一つは、高校生の大会だから高校生が主体でやって欲しいと云うことで、4万6千人の高校生が随所で見られた。金沢市緑地公園に近い総合会場の開会式では、2万人余の観衆の前で2,560名の高校生が演技をしたが、練習ではなかなか揃わぬものが、本番では充分に力を発揮して、ハグレ良くテキパキとやってくれた。オリジナルで、グランドいっぱい石川のすべてを表現する体操演技を披露して、皇太子御夫妻も大変感動され、多くのご質問を頂いた。

本県の選手団の成績だが、当初はメダル獲得数が90個程度もいけばと予想したが、日を追うにつれ3桁台を期待し、最終日には丁度100個となった。この100という数字は全国5位で、参加点も入れる国体方式で計算すれば、石川県は総合優勝と云うことになる。全国30位台の石川県が一挙に5位に躍進した。

金メダルは昨年の1種目から6種目にふえた。小松市立女子校のハンドボールは当初から期待していた。また登山の金沢二水高校の1位。重量挙げでは珠洲実業高校が、創部3年目で団体総合優勝をとげた。個人では鹿西高校の2人のコンビが軟式庭球で優勝。飛板飛込と高飛込の2種

目を制覇した小松市立女子校の合場選手が、気力で最後に金メダルを手にした。また、準優勝でも陸上の110mハードルで、久しぶりにメインスタンドに旗を上げた。伝統のある相撲や重量挙げなど合計14種目の準優勝が出て、昨年の2種目から7倍になった。3位でも11種目で昨年の6種目から2倍となった。ベスト8は45種目も出て、多数の初出場が全国的に上位になったことになる。

たまたま県警が、今年の上半期の少年非行の件数が前年度に比較して34%減ったと云っている。これも高校総体があるためとするなら、少年にはやはり、仕事を与えることが良いのではないかと考える。

一人一役われらが主役の合言葉のもと、裏方のほとんどが高校生だった。特に金メダルに価するのは、総合大会場に飾られた草花で、生き活きと咲き揃わせ、炎天下で管理した農業高校4校の、2年前からの研究努力が見事成功した。駐車場の整理、初めてのコンピューターによるプログラムの作成、看板の製作など、充実感ある、爽やかさの残る大会であったと、各方面から賞賛が集っている。食中毒もなく、県民のご支援に深謝して報告とする。

(文責 吉田富士夫)

私の名刺

及川 雅弘



この度、大村精二様、本岡三千郎様のご推薦をいただき、新会員として、金沢北ロータリークラブに入会させていただくことになり大変にうれしく、厚く御礼を申し上げます。

私は昭和9年5月15日に東京都杉並区に生まれ、戦時中の疎開の後、終戦後に都下立川市に移り、現在も立川市に母と家族を残しております。昭和9年生まれは「小学校」に一度も学んだことがなく、昭和16年に「小学校」が「国民学校」に変わった最初の新生徒であり、最後の国民学校の卒業生であります。又、新制中学開設最初の入学生でもあり、極めて特異な年代になっています。慶応大学を卒業後漢字テレプリンターや電算機の入出力装置を製造している会社に入

社しましたが、縁があって180度の方向転換をして、昭和36年に現在のサントリーである寿屋に入社しました。以来、関東を中心に、名古屋、四国の各支店を経て、本年6月に金沢支店に赴任いたしました。その間に結核により、2年間の休職を余儀なくされましたが、朝、職場へ急ぐ通勤の人達の流れを病窓から眺め、無意に過す自分の情なさと、働けることへの羨しさをしみじみと感じ、健康が如何に大切なものか、身体さえ丈夫であればどんなことをしても生きられる、食べられることを痛感しました。

金沢へ着任の途中に車窓から見る印象は緑が濃く、平野部の広い豊かな地域として写り、最初の休日に市内観光バスに乗り金沢の概略を知りましたが、古い歴史と古き良きものを大事にする街ぐるみの姿勢に強い感銘を受けました。又、市内には若者の姿が予想以上に多く、改めて金沢のポテンシャルの大きさを感ずるとともに、大きな期待をもった次第であります。

ロータリアンの何たるかも判らぬまま入会を認めていただきましたが、今後、先輩諸兄のご薫陶を賜わり、ロータリークラブの一員として努力をいたしたいと存じますので、よろしくお願い申し上げます。

ガバナー公式訪問と クラブアセンブリー

幹事 米沢 修一

今年度ガバナー公式訪問は金沢5RCのトップを切って8月29日開催された。

例会に先立ち、11時より会長・幹事との懇談会を行い、クラブ計画および会長方針について村本第1分区代理、本江副会長同席のもとクラブ目標と事業内容を主にアドバイスを頂戴しながら意見を交換した。

例会でのご講話は時間を延長され、ロータリーの本質に触れ、個人個人の善意を大きくすることが量的問題より大切だとし、その大きな善意の実践こそが今必要であると語られた。

2時より理事、役員はじめ、入会2年未満の会員9名又IGF担当委員会よりも出席願ひ、アセンブリーを開いた。

この度は全員に話す機会を念願とし、各委員長さんが事業計画の概要を説明、その都度桜井ガバナーよりご助言、サジェスションを頂いた。

事前にクラブ要覧を提出してあったこともあり、事業内容についてはおおむね掌握されていてスムーズに会が進行した。

午前中の会を含め、感心されたのはクラブ組織上、修練委員会が設立時より設置されていること



を特に取り上げ「その必要なことがこれから大になる」又、要覧にも一言触れ「計画はあっても実践が難しい」と加え、計画と合せて前年度の実績を記載出来るクラブの活動を評価された。

又、個々には国際的には財団への協力、拡大での新しい職業分類並びに真に職業奉仕を理解する人の発掘と誘いの熱意、さらに広報のあり方について新たに問題提起され、予定の3時30分修了した。

今週の花

吉山宥海
(8月22日)

萩 萩
宗旦もくげ
沢 桔 梗
吾もこうよし



